

KAWASAKI STEEL GIHO

Vol.10 (1978) No.2.3

Improvement Work for Weak Ground at Chiba West Site

(Kazutaka Tsutsumi)

(Motoo Nei)

(Ikuo Jo)

:

Synopsis :

Two stages of land improvement project were carried out to make the weak land suitable within a short period to the respective foundations for blast furnace, steelmaking shop, slabbing mill and others. The first one was the soil stabilization work in which the pore water of the land was drained directly by means of deep wells. The other was the soil improvement work by driving many sand compaction piles. The foundation piles were designed on the basis of a full-size field experimental data which proved to be very effective in solving problems of weak ground such as a large negative friction along a long foundation pile, and a detrimental displacement of the pile due to the horizontal flow of the weak stratum caused by unbalanced loads of upper structures.

UDC 624.138:627.53
658.512.2:624-154

千葉西工場の軟弱地盤対策について —地盤改良と基礎づくり—

Improvement Work for Weak Ground at Chiba West Site

堤 一 高* 根 井 基 雄**
Kazutaka Tsutsumi Motoo Nei

城 郁 夫***
Ikuo Jo

Synopsis:

川崎製鉄技報 1978年1月号 第1回目

素工場、西発電所等の沖合地区は、埋立て土砂の水による自然分級作用によりシルト分がさらに集中した。

(5) 埋立て後、短期間に各設備を建設せねばならなかつたので、まだ水位が高く、かつ不安定な地盤であった。

埋立て後調査した当地区の代表的土質柱状図お

などである。

地盤改良には、一般に間隙水を排出する圧力手段として載荷盛土工法を採用する場合が多いが、今回は、間隙水を直接排出する方法に主眼をおいた。その理由は以下のとおりである。

(1) 埋立て直後であり極端に水分が多い。このため地盤全体がぶよぶよした状態であった。

地約100万m²の地盤改良工事では、溝掘り排水をまず先行させて地盤表面を改良し、次にウェルポイントを施工して地盤上層部の間隙水を抜き、さ

耐震性をとくに重視する構造物の周辺地盤をサンドコンパクションパイ尔で強化した。またトーピードカーなどの重車両の走行する線路下地盤の強

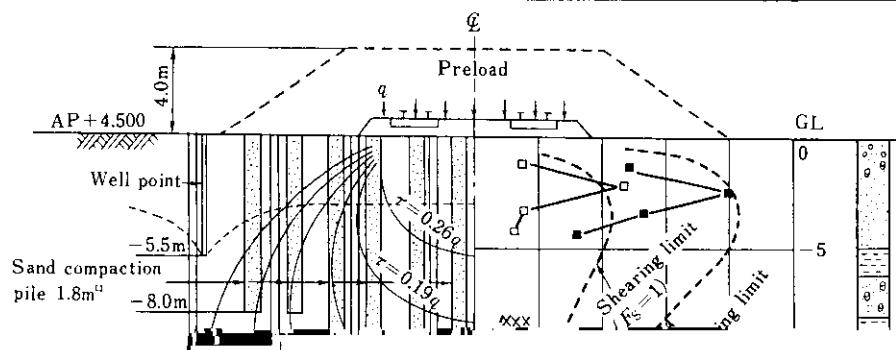
度を増すため、レーピング下地盤の改良を実施した。

揚水した。

として1次地盤改良後の地盤にサンドパイ尔打設、

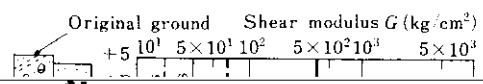
3・2 改良効果

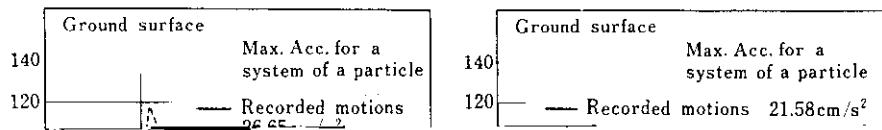
つぎに、Fig. 4 (a) に 1 次地盤改良前後の地盤強度を示す。平均して 1 軸圧縮強さ q_u で 0.4 kg/cm^2



(2) PS検層

各層の剪断弾性係数を知るため PS 検層を行つ





 Agora Foundation

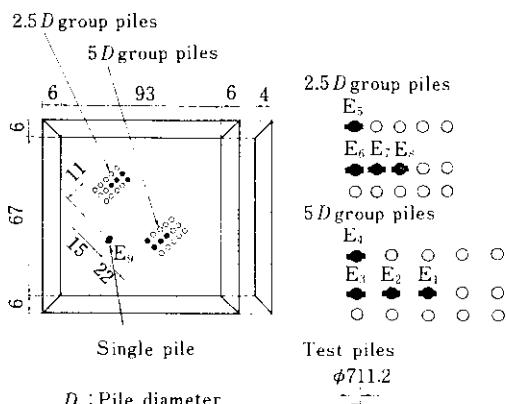
などの検討のため、一連の実物大実験を行った。

(2) 2重管内管ぐいの鉛直載荷試験によるくい先

いの設計の考え方を述べる。

- (a) 中口径鋼管ぐいの先端支持力測定
- (b) 大口径鋼管ぐいの先端支持力測定

力と地盤の沈下量との関係を示す。すでに地盤改良をほどこし、地盤沈下をある程度進行させ、その後の地盤沈下量が小さい場所に打設したくい(C-2, Cs-2)のNFは、まだ地盤改良中で地盤沈下量の大なる場所におけるくい(C-1, Cs-1)のNFとはほぼ同等の値を示している。自然地盤に打設されたいい(X-1, Xs-1)のNFによる最大軸力と地盤沈下量との関係は、改良中の地盤に打設されたいい(C-1, Cs-1)の最大軸力と地盤沈下量との関係に類似している。これらのこととは、ある程度地盤改良しても、多少なりとも沈下のあるか

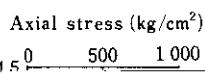


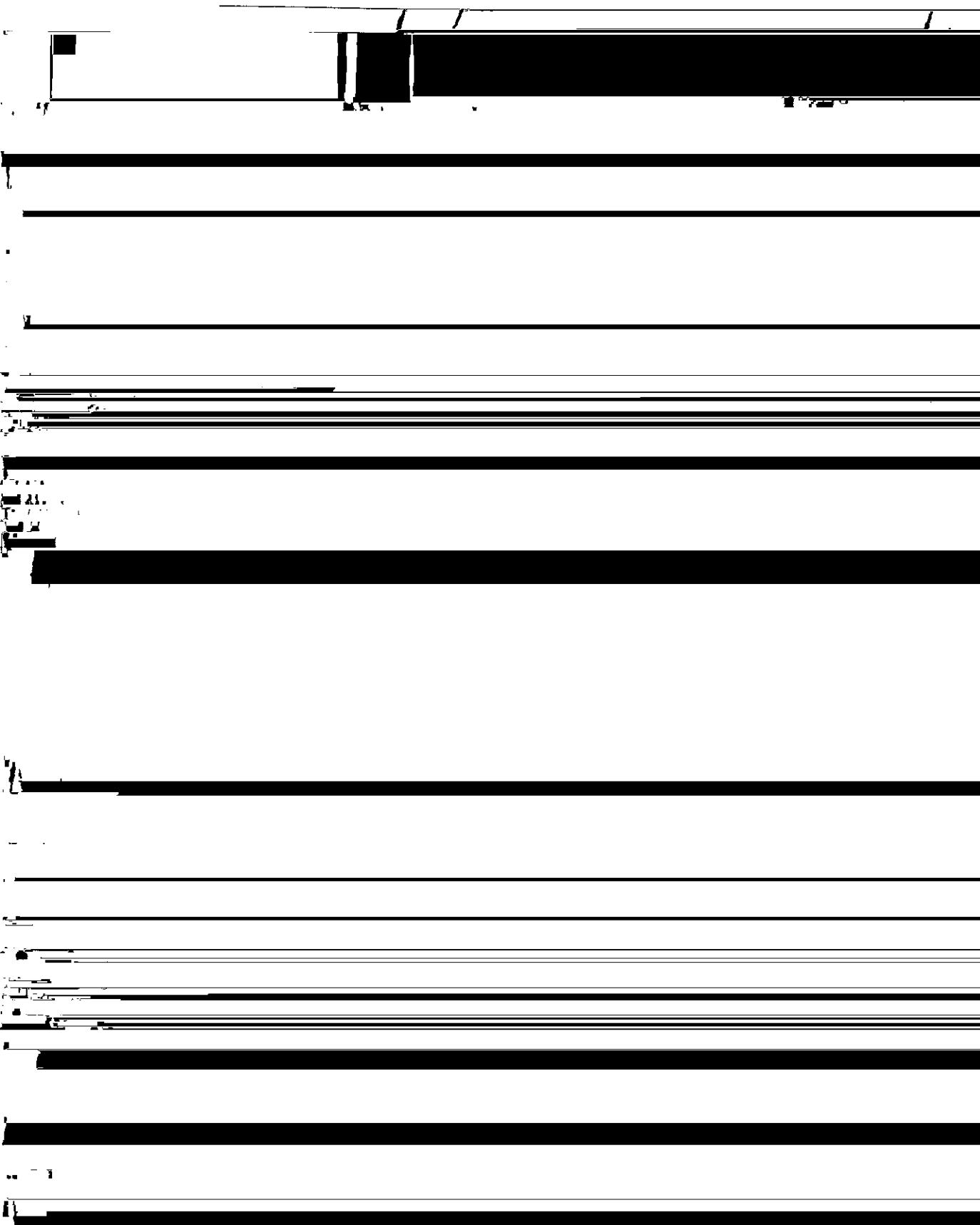
る。

つぎに群ぐいのNF測定試験のくい配置をFig.14に、測定結果をTable 2に示す。くい間隔の小さ

Table 2 Maximum axial force on group piles

0 100 200

E_y : 土の弾性係数 (kg/cm²) P₀ : 地盤反力 (kg/cm²)および弾塑性解による計算値を比較したものである。⁶⁾



Lateral displacement
 δ_b (cm)

R_u は、中立軸からくい先端までの正の摩擦力と
くい先端支持力との和と考え、Meyerhof の式を
用いた計算値と鉛直載荷試験の実測値を比較検討

$$\alpha = \frac{\sigma_h}{\sigma_c} \tan \phi'$$

GL	0.1	0.2	0.3	0.4
----	-----	-----	-----	-----

の水圧が低く、その上層にまだ間隙水圧の高い層
が一部残っているので、この部分の長期にわたる

$\alpha = 0.22 \quad 0.36$